

平成27年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	非視覚の光受容におけるオプシンの分子特性と機能の関係
研究代表者	寺北 明久（大阪市立大学・大学院理学研究科・教授）
研究期間	平成27年度～平成31年度
審査結果の所見	<p>本研究は、松果体や副松果体の非視覚オプシンの波長識別から、手綱核を経た脳への投射、行動までの解析を、形質転換ゼブラフィッシュを用いて行おうとするものである。視物質の分子論から神経生理学までの研究計画は焦点が絞られており、大きな成果が得られることが確実である。行動に関する研究計画はより詳細に検討すべきであるが、ハエトリグモの行動解析などの実績もあり、研究期間内に行動解析的研究の成果も期待できる。</p> <p>応募者らによるオプシンに関する研究は、国際的に高い評価を得てきており、本研究による野心的な展開は、基盤研究（S）として行うにふさわしいものである。</p> <p>以上の理由により、基盤研究（S）として推進することが適当と判断した。</p>